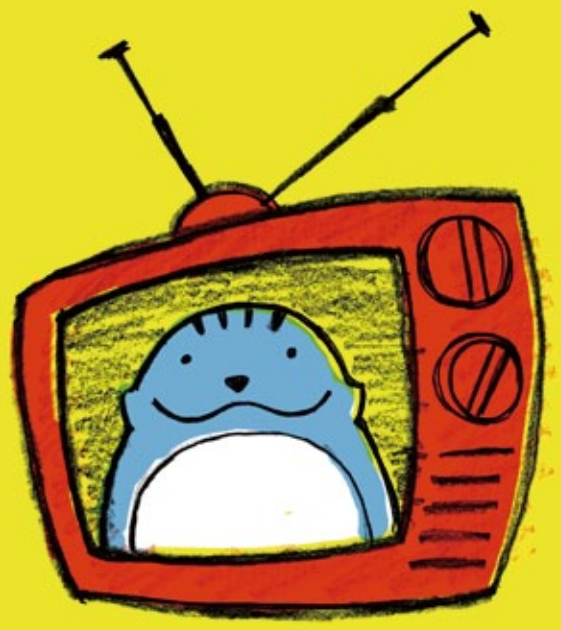
IAT おはなし絵本

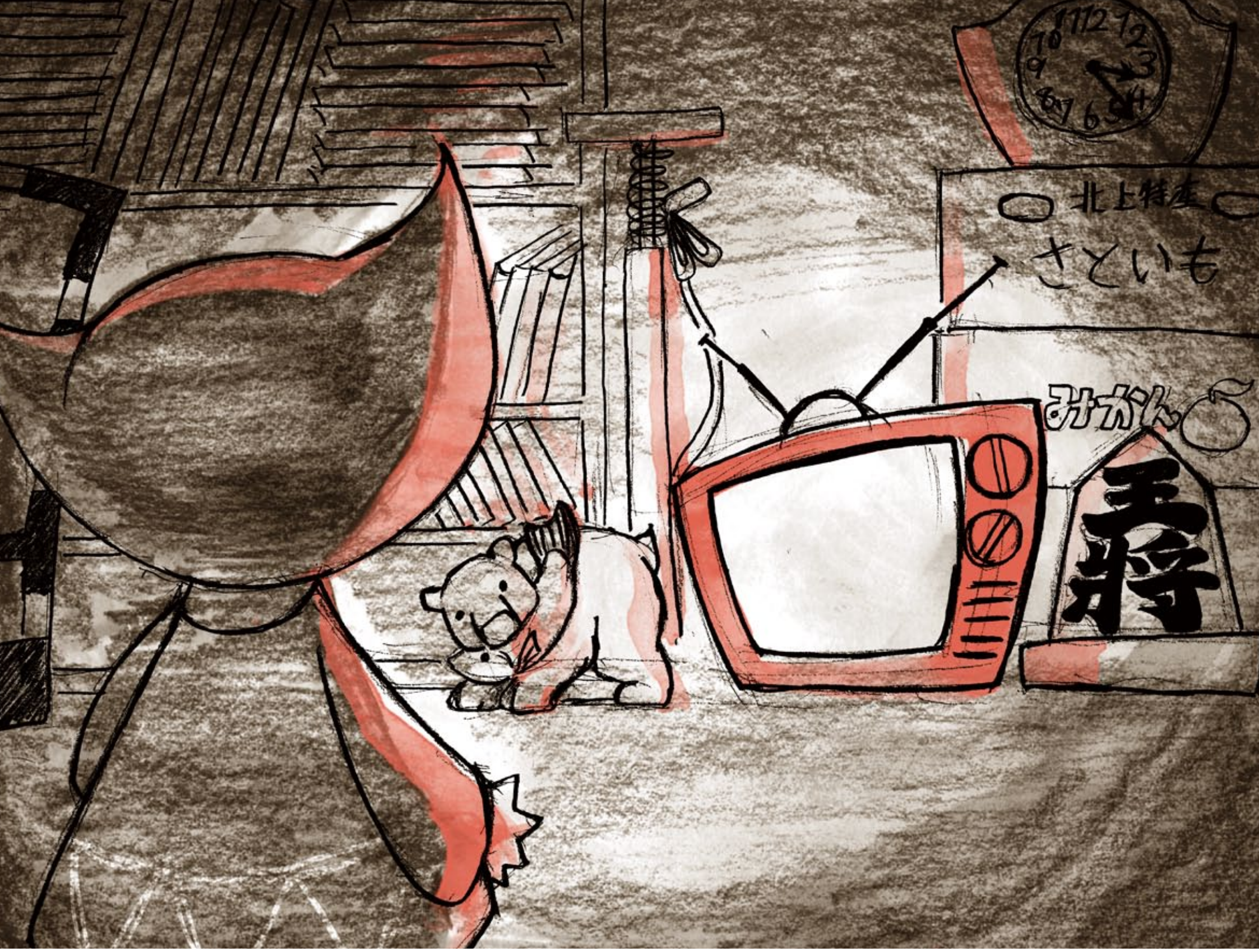
いつ子ちゃんと
ふしぎの町のゴエティーたち



えとおはなし　あべたくや

その　どようびのごご、いつ子ちゃんは　たいくつでした。
おとうさんは　しゅみの「てうちそば」に　むちゅう、
おかあさんは　しごとで　へやに　こもりきりでした。
だから　いつ子ちゃんはひとりで……

こっそり　ものおきを　たんけん
することに　したのです。



はいいろのガラスと　あかいプラスチックでできた
へんてこなハコが、ぼうっと　ひかっていました。

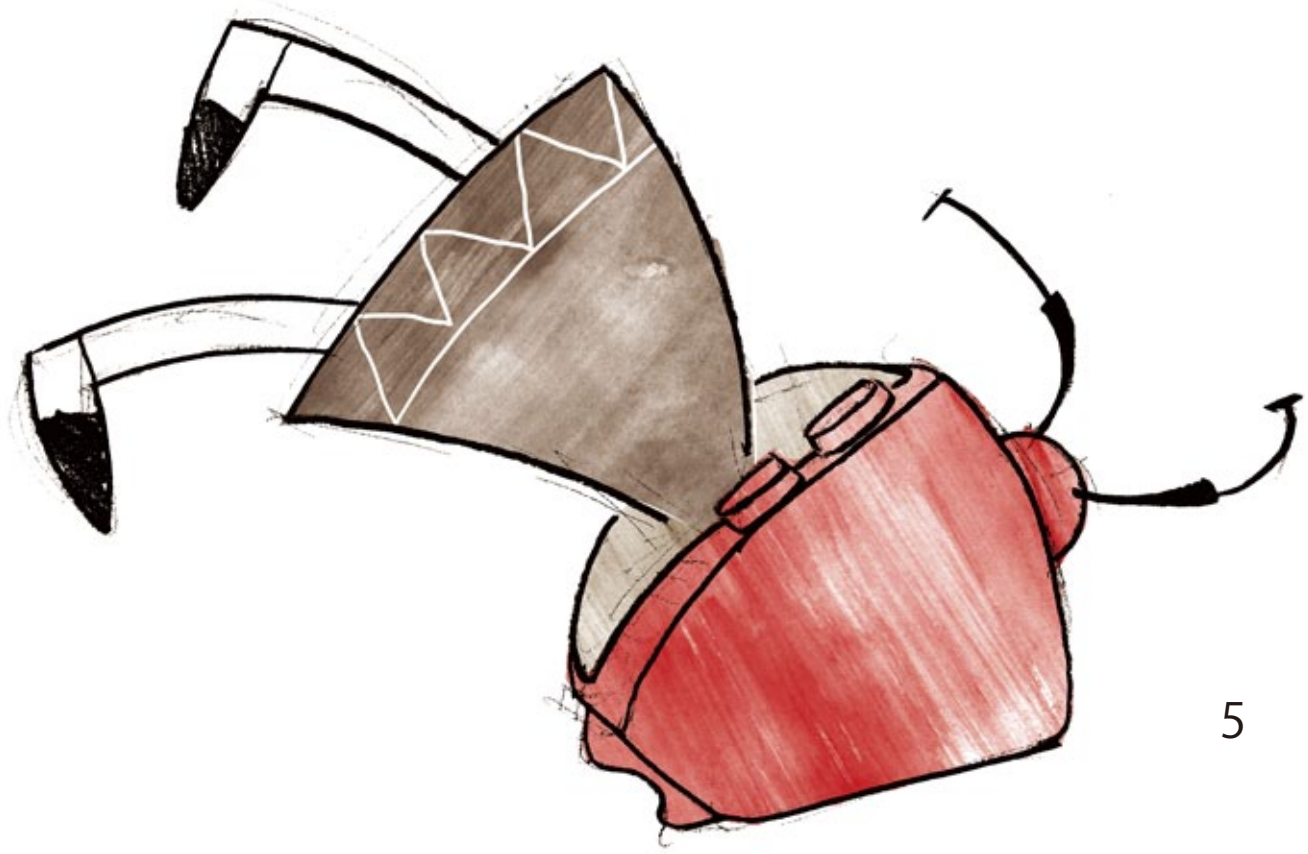
そっとガラスに　ちかづいてみると……

「ひゃあ」　　「ひゃあ」

ガラスのむこうから　みたことのない　いきものが
こっちをのぞいていたのです。

たがいに　びっくり　めをまるくした　そのとたん、
いつ子ちゃんの　からだは　すぽんっ

ガラスに　のみこまれて
しまいました。



ひゅーん
ぐるぐる
ふわーん

……ごっつんこ

ながい　ながい　じかん　おっこちて、
とうとう　あなのそこに　ぶつかりました。

「おお　いたい」
いつ子ちゃんは、おでこを　いしだたみに
しこたま　うちつけました。

めをあけると　みおぼえのない　うらろじでした。
さっきの　へんないきものが　めをぱちくりさせて
みおろしていました。

どこからか　たのしそうな　おんがくが
きこえてきます。

いきものは、ついてこいとでも　いうように
いつ子ちゃんの　てをとると　おとのするほうへ
かけだしました。

そこは　おおきな　おおきな　まちでした。
すんでいるのは　みんな　あの　へんないきものでした。

かぜにのって、うたが　ながれてきました
「ゴー・ゴー・ゴエティー　ぼくらは　みんなゴエティー」
きょうが　いちばんすてきなひ。
だけれど　すてきは　ずうっとつづく
なぜって　あしたは　あしたになったら　きょうになる。
だから　ゴー・ゴー・ゴエティー
ぼくらは　みんなゴエティー」

ゴエティーえかきうた

1. まあるいおやまが
ありました

2. ふたつのおかが
みぎひだり

3. くりがひとつ
おちてきて

4. たねをふたつ
うえました

5. まんまるげんきに
そだつかな

6. ほらみて！
ぴょこんとめがでたよ

7. くもがふわふわ
ゆれている

8. おおきなおおきな
あさひがのぼり

9. いち、に、さん、し、
ゴエティーだ！

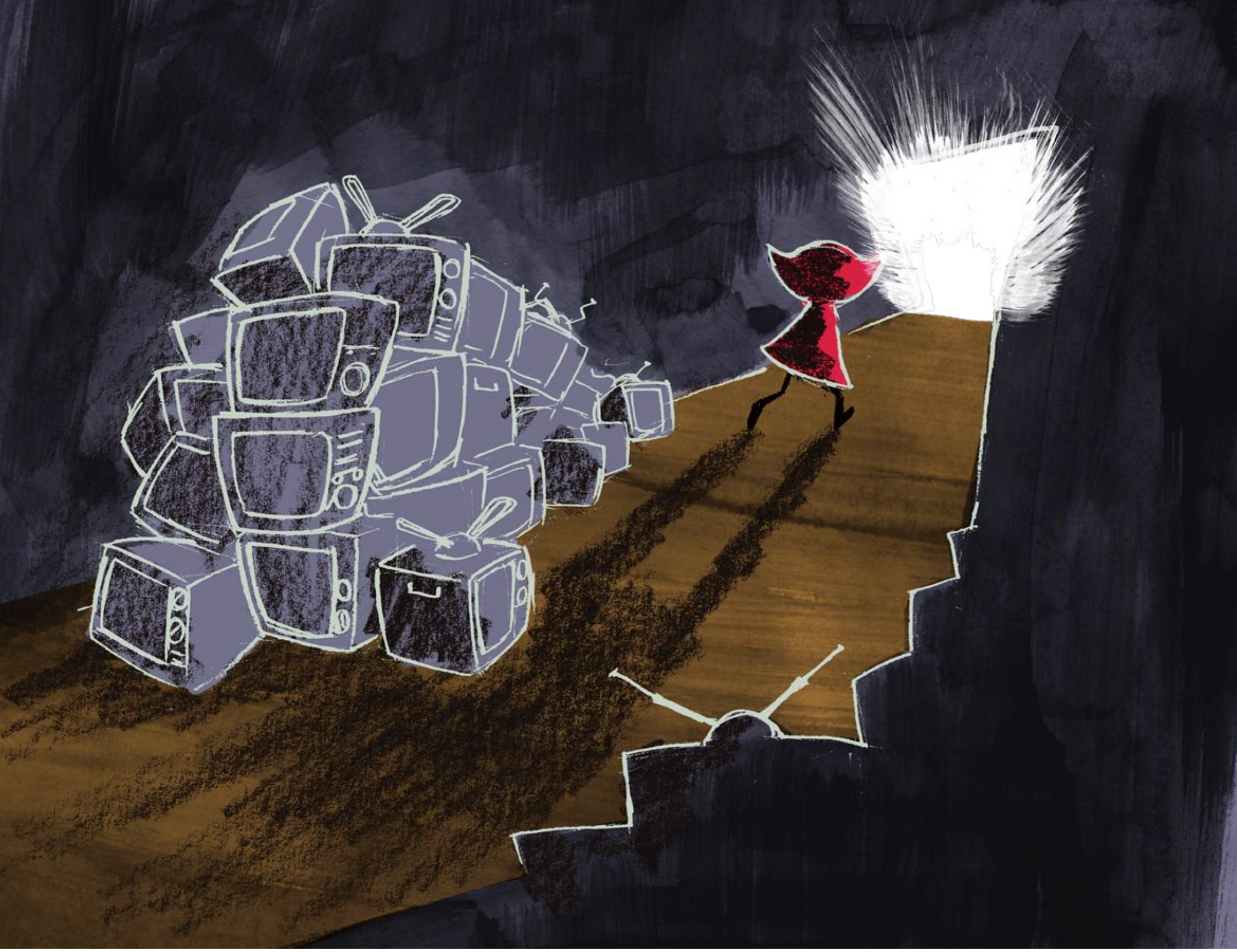
ゴー・ゴー・
ゴエティー・ゴエティー！

ゴー・ゴー・
ゴエティー・ゴエティー！

「へんてこさん、あなたたち、ゴエティーっていうの？」
いつ子ちゃんは、ゴエティーたちに　さそわれるまま、
じかんを　わすれて　あそびました。

はじめてふむ　ステップも、みたことのない　がっきも
からだが　かってにうごいて　かんぺきに　できるのでした。

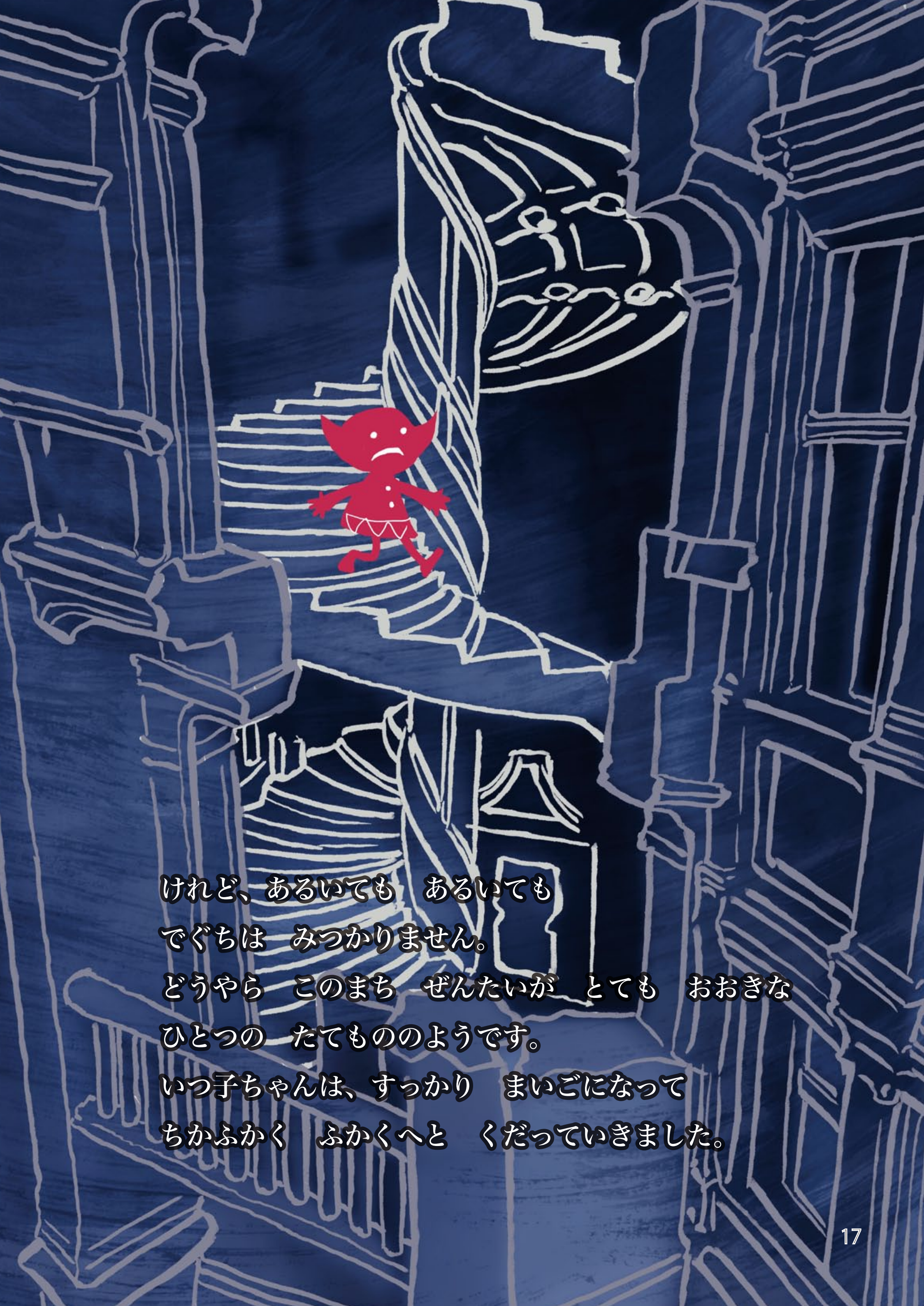
「ぶぅ　ぷぅ　ぷぅ？（ねぇ、ところで、
おうちへの　かえりみち　しらない？）」
いつ子ちゃんが　らっぱで　きくと　ゴエティーも
らっぱで　こたえました。
「ぷぷ　ぷぅ　ぷぅ（しらないなぁ）」



「あなたたちって、きっとこうして　ここで
ずっと　あそんでるのね」

「それって　すてきだけど、わたしは　かえらないと。
たぶん　そろそろ　ばんごはんも　できるころだし」

いつ子ちゃんは、ゴエティーたちに　わかれをつげて、
かえりみちをさがすことに　しました。



けれど、あるいても　あるいても
でぐちは　みつかりません。
どうやら　このまち　ぜんたいが　とても　おおきな
ひとつの　たてもののようです。
いつ子ちゃんは、すっかり　まいごになって
ちかふかく　ふかくへと　くだっていきました。

とうとう、ちかの　いちばんそこまで
たどりつきました。

そこは、おおきな　おおきな　ガラスのうえに
はしらがたくさん　たっているところで、
それが　このまちのおもさを　ぜんぶささえている
みたいでした。

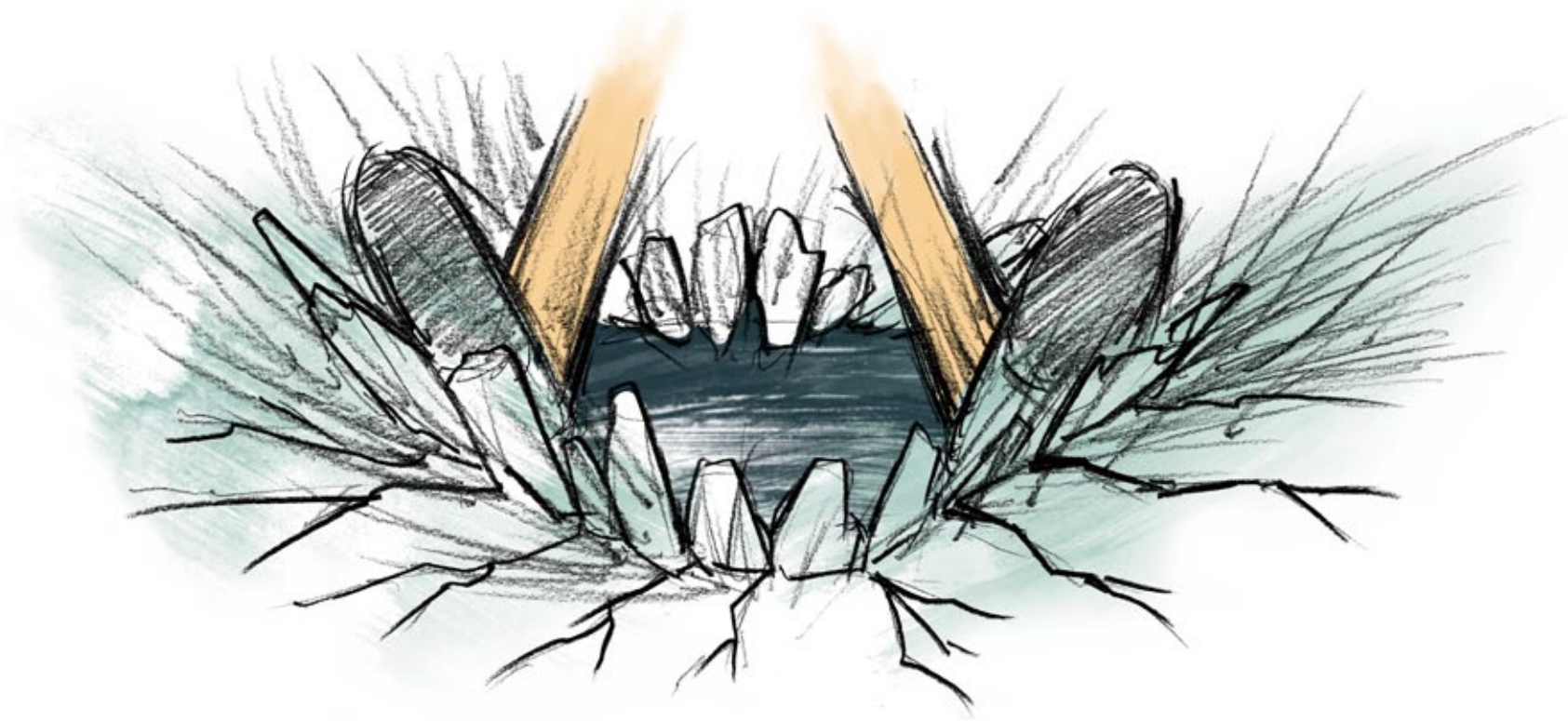
いつ子ちゃんは　おりていって
ガラスをのぞきこみました。

「おかあさんと
おとうさんだ！」

「ようし、こんなガラスなんか」

いつ子ちゃんは、なんども
なんども　ジャンプして
ちからいっぱい　あしもとを
ふみつけました。

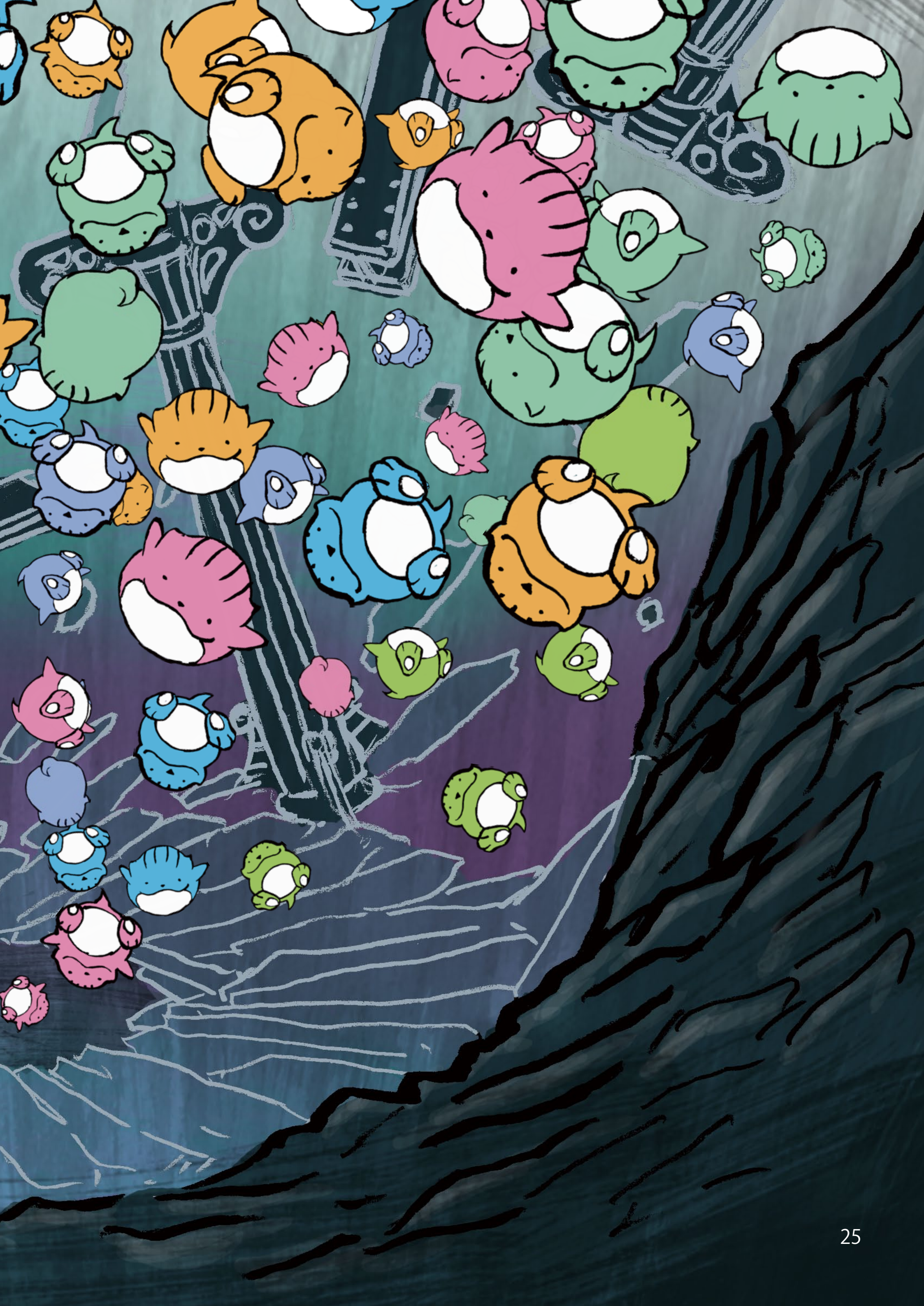
ぴしっ



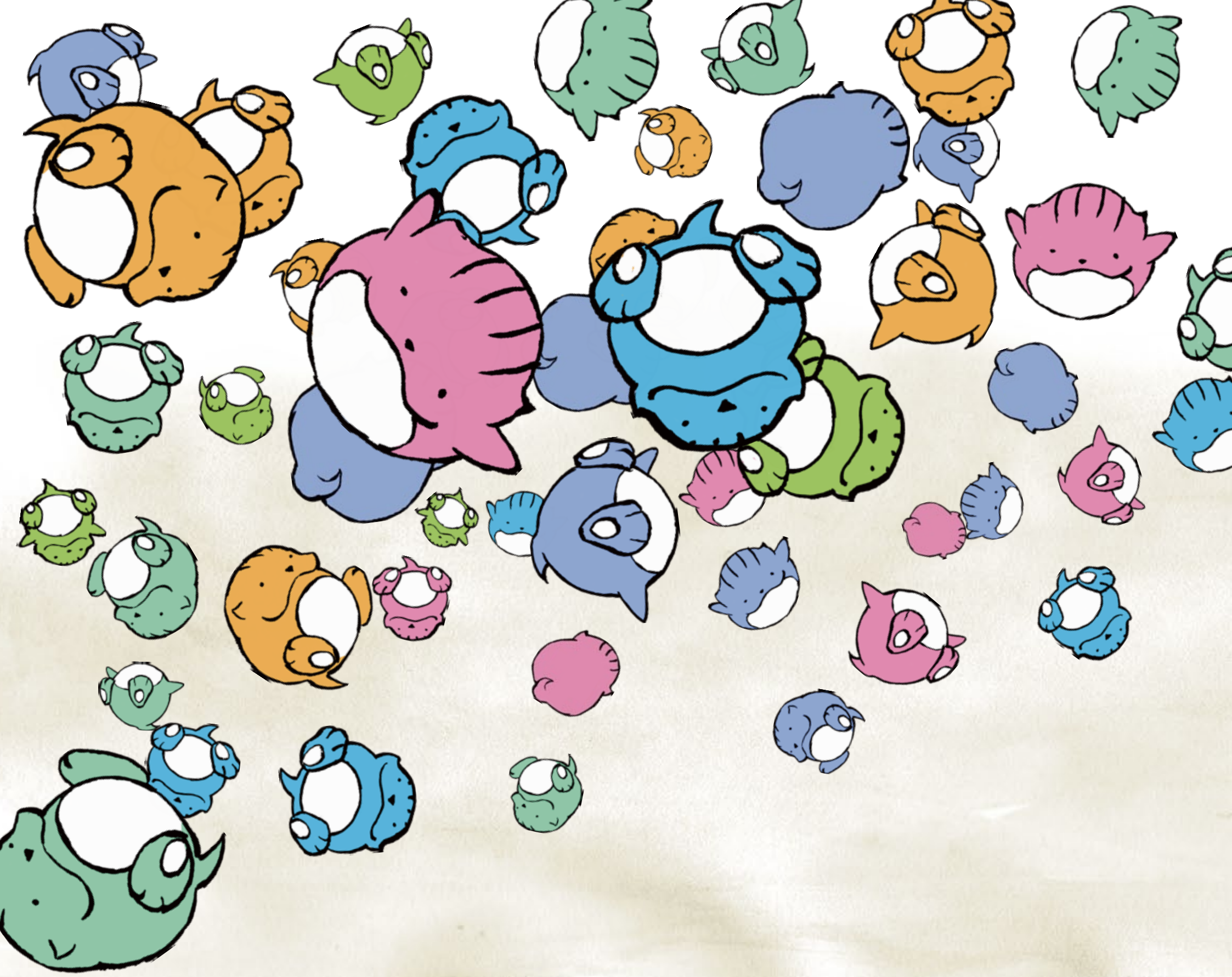
ばりん

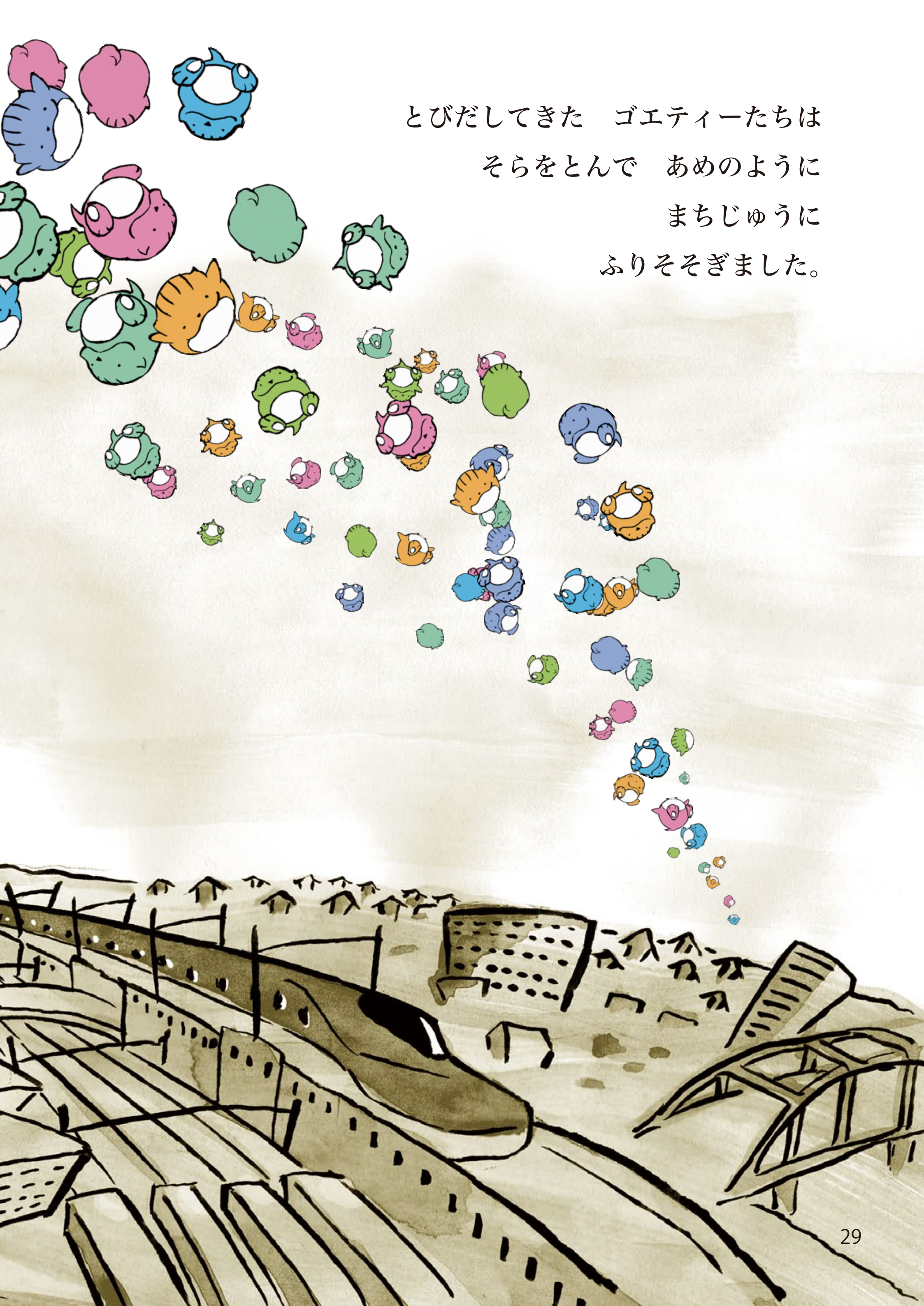
がっしゃーん！！

いつ子ちゃんが　あなを　あけてしまったので
ゴエティーたちの　まちは
いちどきに　くずれはじめました。
みんな　あなのなかへと　まっさかさま。



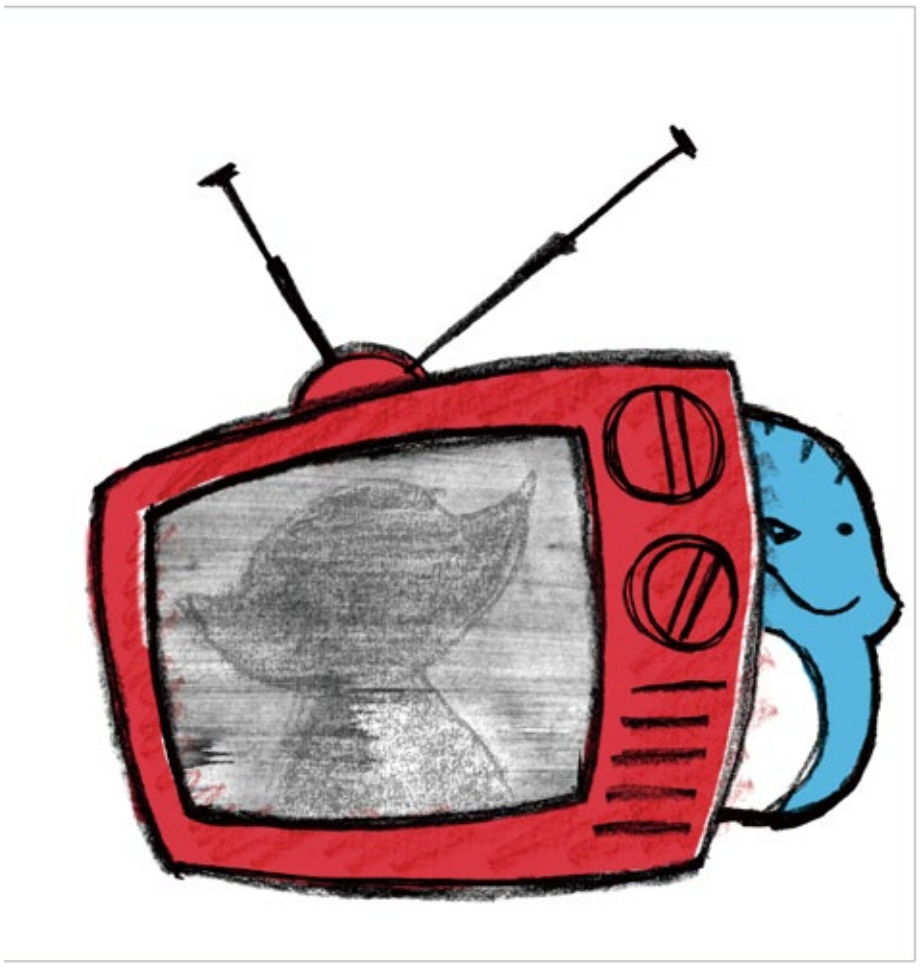
ただいまーっ!!





とびだしてきた　ゴエティーたちは
そらをとんで　あめのように
まちじゅうに
ふりそそぎました。

ですから、もし　あなたが　ときどき　このまちで
おかしな　いきもの　ゴエティーを　みかけるとしたら
それは　こういうわけ　だったのです。



おしまい